

STAGE+を楽しむ(188)(HP 収載)
—グラーフェネック音楽祭 2024 年—

1. 始めに

前報(187)に引き続き、STAGE+のグラーフェネック音楽祭 2024 年の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回はグラーフェネック音楽祭 2024 年の演奏を選びました。

ライブ配信 2024 年 8 月 17 日 2:30

ブッフビンダーが佐渡裕の指揮でガーシュウインのピアノ協奏曲を演奏

グラーフェネック音楽祭 2024 年

再配信 2024 年 8 月 17 日 9:00

再配信 2024 年 8 月 17 日 20:00

本映像は 2024 年グラーフェネック音楽祭のオープニング・コンサートの模様です。音楽祭のディレクターを務めるルドルフ・ブッフビンダーが、トーンキュンストラ管弦楽団と指揮者の佐渡裕とともに、野外ステージ「ヴォルケントウルム」に登場します。ブッフビンダーがソリストを務めるのはジョージ・ガーシュウインのピアノ協奏曲へ長調。ジャズとクラシックの語法が見事に融合した作品であり、ブッフビンダーの技巧とセンスが光ります。

ソリスト:

ルドルフ・ブッフビンダー (ピアノ)

演奏:

トーンキュンストラ管弦楽団

指揮:

佐渡裕

曲目:

ジョージ・ガーシュウイン ピアノ協奏曲へ長調

ルドルフ・ブッフビンダー(ピアノ)

アルノルト・シェーンベルク 交響詩《ペレアスとメリザンド》Op. 5



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

2024年8月17日 9:00からの再配信を試聴しました。

ブッフビンダーのピアノ演奏は今春の東京春の音楽祭の配信で聴いており、佐渡裕は兵庫芸術文化センター管弦楽団の音楽監督ですので、度々演奏会で聴いています。

グラールフェネック音楽祭は初めてですが、ウィーンに近いグラールフェネック城の野外音楽堂で開催される音楽祭のようで、背景には城の塔も見えます。公演開始時には小雨模様のように観客はレインコートを着用しています。

ガーシュウインのピアノ協奏曲は、どこか、ラプソディ・イン・ブルーに通ずるような曲です。ブッフビンダーのピアノがリズムカルに木管群との掛け合いを続けます。

長いインターミッションの間に雨も止み、薄暮を経て照明が灯って次のプログラムに移りました。

シェーンベルクの交響詩《ペレアスとメリザンド》は、ガーシュウインとうってかわって、夜の帳の中で幽玄な出だしから官能に満ちた表情で進行します。懐かしい佐渡さんが本場の指揮で活躍しているのを見て嬉しく感じます。

音質は、野外音楽堂での収録ですが、ピアノはリアルですし、低音もしっかり捉えられています。





4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、野外音楽堂での収録ですが、開放的でくつろいだ雰囲気のリブ感が味わえます。

以上